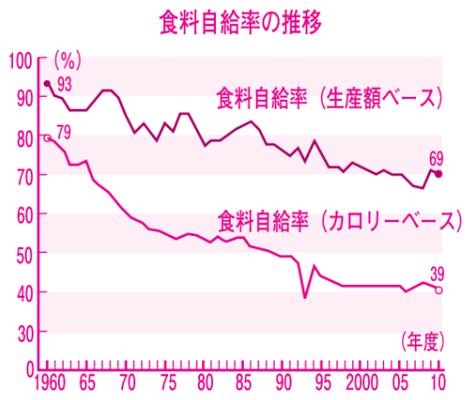




◆食料自給率 39%に
農水省は、2010年度の食料自給率（カロリーベース）が前年度より1ポイント低下し、39%になったと発表した。高温、多雨でテンサイや小麦の生産が減ったことなどが要因。自給率の低下は2年連続となる。政府は、2000年3月に閣議決定した食料・農業・農村基本計画で自給率目標を初めて定め、「10年度45%」とした。しかし当初目標の達成年度になっても自給率は低迷し続けており、自給率向上への政府の姿勢が問われそうだ。

政府は、食料自給率目標45%の達成年度を05年3月の基本計画で15年度に延期。政権交代後は、10年3月の基本計画で「20年度50%」に目標を引き上げた。一方、1960年度は79%だった自給率は98年度には40%まで低下、その後はほぼその水準で推移し、向上の兆しは見えない。

10年度の自給率を小数点第1位まで見ると38.5%で、前年度より1.2ポイントの低下となった。個別所得補償制度の本格導入の前段階として政府は10年度にモデル対策を実施。米粉用をはじめ、新規需要米の作付けが倍増するなど一定の成果を挙げたが、自給率を浮揚させることはできなかった。



(8/12)

◆人間ドック、異常発見最多

日本人間ドック学会は、2010年に人間ドックを受診した全国の約300万人について、「異常なし」とされた人の割合が前年を1.1ポイント下回り、8.4%と過去最低を更新したと発表した。

集計を始めた1984年から続く減少傾向に歯止めはかからなかった。同学会の笹森典雄名誉顧問は「診断技術の向上により、より多くの異常が発見されるようになった」としながら、「年代に関係なく成績が悪化している。ストレスへの対処や生活習慣の改善が不可欠だ」と話した。

地域別では異常なしは中四国が13.3%と最も高く、最低は九州・沖縄の5.7%だった。異常があった検査項目は多い順に肥満(27.7%)、高コレステロール(27.3%)、肝機能異常(27%)。見つかったがんは全体では胃がん(28.2%)と大腸がん(16.5%)が多かったが、女性に限ると乳がんが41.7%でトップ。男性では前立腺がんが13.6%で3番目に入った。

(8/20)

◆広島県、森林税継続へ

2011年度末で5年間の課税期間終了を迎える広島県の「ひろしま森づくり県民税」(森林税)について、県の事業評価委員会は2日、「継続が妥当」と判断した。県は12月の県議会定例会に、課税期間を2016年度まで5年間延長する条例改正案を提案する予定でいる。

評価委がこの日まとめた報告書案では、「森林税を財源にした森林整備で山地が保全され、雇用機会も創出された」と強調。継続は県民から理解が得られるとし、現行税率の維持を求めている。

評価委事務局の県は今後、報告書案を公表して県民から意見を募る。評価委は10月下旬の次回会合で報告書を最終決定する。座長の戸田常一広島大学院教授は「大切な資源を守るため森林税は必要だ」と述べた。

県は07年度に森林税を創設。県民税に上乗せする方法で県民から年間500円、法人からは資本金に応じて年間4万~千円を徴収する。5年間で計39億7200万円の収入を見込み、スギやヒノキなど人工林の間伐や、里山や都市近郊の林の整備費に充てている。

(9/3)

◆モットイナイを世界語に マータイさん死去

34年前に7本の植樹で始まったワンガリ・マータイさんの植樹活動は、アフリカ各国に拡大し、平和と環境保護の思いは、「モットイナイ」の日本語に乗って世界に広がった。

マータイさんは、ナイロビ市中心近くのナイロビ病院でがんのため25日夜死去した。マータイさんを日本で有名にした「モットイナイ」は、ノーベル平和賞を受賞後、2005年に訪れた日本で出会った言葉だ。限りある資源を大切に作る精神がこの日本語に宿ると感じ、活動に使って世界に広げた。アフリカで捨てられるペットボトルなどの再生利用を「モットイナイ」という言葉で説明した。

その活動は、日本でもブームとなった。リサイクル繊維で作られたネクタイが似顔絵とともに売られたり、活動に共感した自治体が省エネの標語に「モットイナイ」を取り入れた。ケニアでは、マータイさんは「強い女性」として知られる。活動が人権保護や民主化運動とも連動してきたためだ。強権政治を敷いていた Moi 前大統領を公然と批判。民主化を訴え投獄された政治犯の釈放を求めて、ハンガーストライキに参加し、治安当局によって度々弾圧を受けてきた。また、市中心街の公園に高層ビルを建設する政府の計画に反対運動をした。公園は今、市民の憩いの場になっている。

(9/27)



大阪国際会議場にて行われた授賞式。右が当協会職員、和野田議長補佐。

食品衛生検査セミナー賞(通称・阪崎賞)を、当協会の環境生活センター分析三課和田貴臣課長補佐が受賞、九月十三日に大阪国際会議場で開催された授賞式に出席し、受賞講演を行った。

【環協職員】

食品衛生検査セミナー賞(阪崎賞)を受賞

簡易迅速検査・食中毒予防に期待

今回は、遺伝子増幅法(PCR法)や抗原抗体反応法(イムノクロマト法)を利用した「食品微生物検査」における簡易・迅速検査法の研究が評価された。この研究は、食品製造企業には「検査期間の短縮化」、試験メーカーには「試験手法の有効性の検証」、一般消費者には「安全な食品の流通」などに、食品流通に携わる人たちに役立ててもらおうと始めた。食品別に有効な検査薬や検査方法をデータベース化する事で、迅速に精度の高い食中毒検査を行えるシステムの確立を模索した。

夏休み子ども職場見学会開催 職員との名刺交換が好評



参加者の集合写真(上)、職員と名刺交換しながら職場見学を行った(下)

当協会では、第二次世代育成行動支援計画の一環として「環協 夏休み子ども職場見学会」を八月二十二日に開催しました。当日は、職員の子ども十二人、保護者三人を含む合計十五人が参加し、日頃見ることのない親の働く職場風景を見てもらいました。見学会では、クイズ大会や昼食会、エコ講座の体験や職場見学を行いました。見学会では、健診フロアのCT室や検診室、食品分析や生物調査を行う分析室などを見学し、保護者からは「職員と子どもとの名刺交換が印象的だった」との声が寄せられています。今後も、職員がいよいよ働けるようさまざまな活動を通じて、より一層のワークライフバランスの充実を図っていきたく考えています。

第52回広島県公衆衛生大会 ～ 健やかな暮らしをつくる人々の集い ～
 開催日時：平成23年11月10日(木) 10:30~15:00
 開催場所：佐伯区民文化センター(広島市佐伯区五日市中央6-1-10)
 参加対象者：公衆衛生推進委員(地区のボランティアリーダー)・各市町の環境保健行政関係職員 など
 プログラム：
 ■大会式典(表彰式・大会宣言)
 ■環境啓発ポスター・標語コンクール優秀作品表彰式(表彰式・作品紹介)
 ■1万人のエコチェック事業おたのしみ抽選会
 ■リレー講演 演題：「環境啓発ポスター・標語コンクール」から見る公衛協活動
 ～ 私たちが期待すること ～

健康感謝募金
 ～地区衛生組織活動資金募集～
 市町別一覧表(平成23年9月末現在)

市町名	募金額(円)	達成率
呉市	8,238,424	147.6
府中市	1,378,400	129.9
海田町	1,855,622	316.7
野野町	1,483,320	289.2
江田島市	2,045,726	308.7
竹原市		
大崎上島町		
大竹市	2,656,700	422.7
廿日市市	3,482,326	226.9
廿日市市佐伯	377,809	154.6
廿日市市吉和	97,900	487.1
廿日市市大野	2,560,900	458.8
廿日市市宮島	216,800	499.0
安芸太田町	1,190,880	291.3
北広島町	1,563,100	235.8

健康感謝募金 総額 **50,112,934円**

健康感謝募金 Q & A

Q：健康感謝募金を呼びかけるにあたり、どこに気をつければよいですか？
 A：健康感謝募金の目的、使途を明確に伝え、募金を財源とした公衛協活動を十分PRしましょう。

健康感謝募金は、公衛協の活動資金であり、大切な自主財源です。募金の使用にあたっては地域のためにどう使うか、何に使ったか、目的・使途を明確に示しましょう。

募金を活用した公衛協事業を行う際は、「健康感謝募金の一部を充てて実施しています」など、ご協力いただいた住民の方に、募金が還元されていることが分かるようにPRしましょう。また、総会資料などで、どのような事業が実施されているかを把握し、住民の方から何に使用しているのかと質問された際には「こういうねらいで、こんな事業を実施しています」と答えられるようにしましょう。

健康感謝募金は、昭和35年から実施し、平成23年度で52回目を迎えます。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。